

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 6 月 24 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500114		
法人名	株式会社中田介護事業所		
事業所名	よもぎ		
サービス種類	グループホーム		
所在地	大阪府池田市豊島南1丁目13番2号		
自己評価作成日	平成25年6月24日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成25年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々健康で現在の能力を維持出来るように、毎日の体操、脳トレを行っております。又利用者の希望、思いを大切に考え、入浴、散歩、レク等も強要はせず、本人が納得して貰える様に努めております。日々の中で楽しみが持てる様にハンドベル、華道、歌体操等のボランティアの方に来所して貰ったりしております。外食や季節に応じて花見、遠足等も行っており、楽しんで貰えるように工夫しております。利用者の方との信頼関係作りも大切に考えており、利用者のペースに合わせた寄り添う介護が行える様に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型サービス、通所介護サービス併設の地域に密着したグループホームは、利用者と共に地域行事活動へ積極的に参加し、交流の機会を持っている。さらに、地域の行事への参加や事業所全体での祭り開催時には、地域の方にも参加を呼び掛け交流をしている。また、ボランティアの来訪がありハンドベル、華道、歌体操等利用者の楽しみとなっている。さらに、地域に向けて介護相談など事業所の機能を活かして地域貢献できるよう取り組み、地域の方からの相談や認知症に対する理解を深めてもらえるように取り組んでいる。代表・職員は利用者との日々の関わりの中で何気ない話から思いや意向を把握・聞き取り、利用者のペースに合わせた寄り添う介護に努めている。日常的に、利用者の希望や身体状況に応じて、調理や盛り付け・配膳・後片付けなど食事に関する一連の作業への参加を支援し、一人ひとりが役割を持ってゆったりと日常生活が送れるように、心身の自立支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所理念を入口に掲示しており職員全員で共有できるように努めている。</p>	<p>法人の理念を事業所の理念として入口に掲示いつでも見て確認し全職員で共有するように努めている。ミーティングの中等で理念に基づいた話を行うことで理念の理解と共有を図っている。</p>	<p>法人理念を基に地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ運営方針を立て、より理念の共有と実践に取り組むことが望まれる。</p>
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的な交流は少ないが、地域の行事等には利用者の方と一緒に参加したり、事業所の催し等では地域住民の方も参加して頂いている。</p>	<p>地域の行事への参加して交流の機会を持っている。事業所全体での祭り開催時には、地域の方にも参加を呼び掛け来訪してもらい交流をしている。また、ボランティアの来訪がありハンドベル、華道、歌体操等利用者の楽しみとなっている。現在、地域の方に気軽に立ち寄ってもらえるような家庭的な玄関の雰囲気作りを検討している。地域で開催される今夏の祭り時に出店の働きかけを行っており、事業所の機能を活かして地域に貢献できるような取り組みに努めている。</p>	<p>今後も地域密着型サービスとして、利用者が地域と関わりを持ちながら暮らし続けることができるように、事業所より積極的に地域への働きかけをが望まれる。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域代表の方に相談や聞きたい事等があれば気軽に来て下さいと伝えている。</p>		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回運営推進会議を開催しており、家族、地域、自治会、包括支援センターの方達と意見交換している。</p>	<p>2カ月に1回運営推進会議を開催している。利用者家族代表者、自治会役員、地域包括支援センター職員の方に出席してもらい、事業所の活動状況や利用者の状況報告を行い、参加メンバーより意見や提案、助言をもらい運営やサービスに反映させるように努めている。</p>	<p>運営推進会議の内容は参加できなかった職員やメンバーにも理解してもらえるようにすることが望ましい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村担当者とは連絡を取り合っており、協力関係を築くように努めている。</p>	<p>事業所での課題や疑問があればケアマネジャーを通して市町村の担当窓口へ連絡を取り、助言や指導を受けるようにしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに努めており、職員は具体的な行為も理解している。また、施設内研修を行い、理解に努めている。</p>	<p>建物内のエレベーターや階段は自由に使い移動ができるようになっている。玄関の施錠は利用者の安全性の確保が難しい場合には短時間施錠することはあるが、利用者に閉塞感を感じさせないように努めている。現在、利用者・家族と共に話し合いを通してペット柵の使用をしている利用者がある。身体拘束をしない研修も実施しており、車椅子で一日職員が過ごす体験を通して拘束をしないケアの理解を深め虐待防止と共に徹底を図るように取り組んでいる。</p>	<p>ペット柵等、拘束をやむを得ず行う場合には、経過記録、拘束を最小限にする為の検討の記録などを残しておくことが望まれる。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止をテーマに施設内研修を開催し、学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>面談・面接等で十分に話し合い、理解・納得された上で契約を行っている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しており、意見・要望を伝えやすい様にしている。又入口に外部への相談窓口の案内も掲示している。</p>	<p>意見箱を玄関に設置している。電話連絡や家族面会時等に職員に直接意見や要望などを聴取する機会となっている。家族面会時には職員側より挨拶をするようにしており、お茶などを出して話かけを行い家族から職員へ意見や要望を出し易い雰囲気作りに努めている。毎月「よもぎ便り」を発行し、事業所での利用者の生活の様子を伝えるように取り組んでいる。</p>	<p>グループホームの全体の様子だけでなく、利用者個々の生活の様子も家族に把握してもらい、家族からより多くの意見や要望を出してもらいサービスの質の向上に役立てる取り組みが望まれる。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>全体会議・フロア会議をほぼ毎月開催し意見・提案を聞く機会を設けている。また意見、提案がしやすい様、雰囲気作りに努めている。</p>	<p>法人の全サービス事業所が集まる全体会議やグループホームだけで開催されるフロア会議を毎月実施し、職員からの意見や要望・提案を聴取する機会となっている。会議開催前には、会議までの把握や申し出のあった課題や意見にを全職員へアンケートや意見聴取を行っている。フロア会議では、利用者の近況についても情報共有する時間を持ち、職員からの意見や気づきを出してもらいサービスや運営に速やかに反映させるように努めている。職員や管理者・経営者共にコミュニケーションを十分に持ち意見や提案が出しやすいように雰囲気作りに配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>日常的に職場を観察するようにしており、状況の把握や職場環境(条件)を考慮実行している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の機会を設けており、外部の研修にも積極的に参加できる様にしている。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホームの会合等に参加しており、ネットワーク作りや意見交換の場を設けている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面接・面談から本人の話を傾聴し信頼関係を築くように努めている。又利用開始当初は本人と接する時間を十分にとる様に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面接・面談から十分に時間を取っており、安心して貰える様に話し合いをするようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用開始前より十分に時間を取り、必要としている支援を考え、色々な提案をする様に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者との関係を大事に考えており、信頼して貰える様に努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の方と密に連絡を取る様に努めており、面会などにも気軽にきて貰える様に努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>関係が切れない様に支援しており、買い物等では昔行った場所等に行っている。</p>	<p>利用者の馴染みの場所への外出の希望があればできる限り支援するようにしている。馴染みの人の来訪があれば気持ち良く面会ができるように支援するようにもしている。</p>	<p>ボランティアの来訪などで利用開始後にできた馴染みの関係も継続できるように支援することが望まれる。</p>

21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士に職員も加わり、トラブルの起きないように努めている。座る位置等も考慮している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了しても、相談しやすい様に努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との対話等から思い等を把握する様にしており、本人の過ごしやすい暮らしが出来る様にしている。</p>	<p>利用者との日々の関わりの中で何気ない話しから思いや意向を把握・聞き取るようにしている。昔遊んだ品物や遊んだ場所等が話しの中から聞きとられる。利用者のペースに合わせた寄り添う介護に努めております。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>本人との対話や家族からの情報等から情報収集を行っている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日の介助、援助等から常に状態を把握するように努めている。</p>		

26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人らしく暮らしている様に関係者と話し合いをしており、現状にあった介護計画を作成している。</p>	<p>一人ひとりが役割を持ってゆったりと日常生活が送れるような計画となるように作成している。計画作成担当者が「施設サービス計画書」を作成し、施設サービス計画書を基に利用者一人ひとりに合わせた細やかな支援ができるように、利用者・家族の希望を踏まえ各利用者担当の職員が個別援助計画を作成している。個別援助計画の作成を始めたところで今後は、3～6カ月の定期的な評価を実施していく予定にしている。利用者の日々の生活の様子や支援の結果は経過記録に明記されている。経過記録は時系列で記載されており、リーダーが全利用者の経過記録を日々確認している。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に介護記録を記入し、職員間で情報を共有しており、実践・介護計画書に活かしている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望に出来る限り対応するようにしており、その時々生まれるニーズに対応するようにしている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの方に来所して貰ったり、地域資源を活用し豊かな暮らしを楽しむ様に工夫している。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診、かかりつけ医は家族の意向を大切にしており、納得して貰えるように努めている。</p>	<p>利用者・家族の希望に応じて受診ができるように支援している。内科の往診医の来訪を2週間に1回受け、疾患・健康管理を行っている。眼科や皮膚科は、利用者・家族の希望や意向に応じて家族の協力を得て受診ができるように支援している。身体状況に変化が生じた場合には、内科の往診医の臨時の往診を受けることもできている。内科の往診医が認知症の専門医でもある。身体状況の変化が見られて場合は看護師に相談し適切な対応が来ている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常の関わりの中での変異や気づきは看護職員に相談するようにしており、適切な受診や看護を受けられるようにしている。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院関係者との情報交換や相談に努めており、関係づくりも行っている。</p>	/	/
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族等とは十分に話し合い、説明を行っており、必要な段階には家族、主治医、看護師と話し合いをしている。</p>	<p>利用者・家族の希望に応じて重度化・終末期の支援を行き、契約より説明し理解と納得を得ている。現在まで看取りを行ったことはなく、今後看取りを行っていくために詳細な内容を話し合い・検討を重ね利用者・家族の希望や要望をくみ取りながら支援、体制を整えていくように取り組ま始めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>対応マニュアルの作成や、その日の状態等から、申し送り、連絡体制の確認等を行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時の為に避難訓練を行っており、地域との協力体制も築いている。</p>	<p>非常災害時の避難訓練を併設の小規模多機能事業所と共に定期的に行っている。運営推進会議を利用して、地域住民の方とも協力体制を依頼し支援体制の整備に努めている。</p>	<p>定期的な訓練だけでなく、年間を通じて利用者の身体状況等を踏まえて避難誘導方法を検討し、非常災害時に速やかに避難ができるように職員間で周知する取り組みが望まれる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>対話を大切に考えており、声掛け、対応にも日々注意している。</p>	<p>排泄・入浴支援時には特に声かけや誘導・介助方法に羞恥心や尊厳を大切にした援助ができるように努めている。利用者の個別やプライバシーに触れる話しをする時には、それぞれの個室で話するように注意している。</p>	<p>個人情報やプライバシーの保護の研修を重ねて行うだけでなく、日々のケアの中で尊厳やプライバシーに触れるようなことがないか振り返る機会を持ち日常的な確認と改善に向けた事業所全体での取り組みが望まれる。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思い、希望を引き出す様に努めており、自己決定できる様に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望を尊重し、常に本人のペースに合わせた支援を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>お気に入りや好きな物等本人が納得して貰える様に支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は準備、片付けまで出来る範囲で利用者の方とお行っている。又気の合う方と同席して貰ったり、調理レクを定期的に行っている。</p>	<p>それぞれの調理担当者が利用者の希望や季節を踏まえた献立を立て調理を行っている。利用者の希望や身体状況に応じて、調理や盛り付け・配膳・後片付けなど食事に関する一連の作業に参加できるように支援している。食事時には職員も一緒に利用者と共に会話を楽しみながら食べるようにしている。水分摂取には注意を払っており、気温の変化や気候に応じて水分摂取を勧める回数を増加している。また、ゼリーなども利用し水分が十分に取れるように工夫している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>個人の状態や能力によって、トロミや刻み等で食事を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個人に合わせた口腔ケアを支援している。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンの把握に努めており、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェックを行い排泄のパターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた排泄誘導・支援を行い排泄の自立を図っている。おむつを可能な限り使用せず自然な排泄ができるように支援しており、日中は布パンツで過ごすことができるようになっている方もある。</p>	<p>今後も利用者一人ひとりに合わせた排泄の支援を全職員で統一して行い、羞恥心や不安への配慮を行った排泄支援を継続していくことが望まれる。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日の体操や水分摂取等に注意しており、個々に応じた予防、対応をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日は決めておらず、その日の状態や訴え等から入浴するようにしている。楽しんで貰える様に、無理な入浴はしない様に努めている。</p>	<p>曜日や時間を決めずに利用者の状態や希望に合わせて入浴してもらえるように支援している。基本的には同性介助を行っている。入浴は本人の希望に合わせて行うが、入浴を嫌がる方には気持ち良く入浴してもらえるように声かけや誘導を工夫している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>生活習慣や時々状況、状態に応じて休んで貰える様にしている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ファイルを作成しており、目的、副作用等の把握に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その人に応じた役割を担って貰ったり、個々の希望に添った気分転換等を行える様に支援している。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>出来る限り希望に添った外出が出来るように支援している。日常的に散歩の声かけを行い無理の無い様に支援している。</p>	<p>可能な限り希望に沿って外出できるように支援している。日常的に周辺の散歩を行うように支援しているが、利用者が気持ち良く日光浴を楽しみ気分転換や季節を感じる事ができるように車を使用して少し離れた公園で過ごすことができるようにも日々支援している。外出を嫌がる方でも外で過ごすことができるように買い物等を利用し外出の機会を多く持てるように工夫している。毎日、下肢筋力低下予防運動を行っている。</p>	<p>身体的な負担が少なく利用者の気分に合わせて屋外で過ごす機会をより多く持つために建物前のエントランス等を利用して利用者が外気浴を楽しめることができるようなスペース作りの工夫をされることが望まれる。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が出来る方には自信で持って貰っており、買い物等で使えるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>出来る限り希望に添った支援をする様に努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングにはソファやテーブルがあったり、冬はコタツを配置する等、利用者がくつろげるよう配慮しております。</p>	<p>ゆったりとして清潔感がある、落ち着いた色調のリビングのテーブルを囲んで利用者は寛がれている。リビングにあるアイランドキッチンから食事支度の様子や料理の匂いがただよい家庭的で、五感刺激となっている。フロアの一角にあるスペースにソファを置き思い思いに過ごせる配慮が見られる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>お気に入りの場所や気の合う利用者の関係等を考えて過ごせるように工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物や家具等を持って来てもらい、居心地良く過ごせる様にしている。</p>	<p>人のぬくもりが感じられる居室は、備え付けのベットやタンスはあるが、利用者、家族の希望で使い慣れたタンスやADLや希望に応じたベットの持ち込みが行えるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの出来る事を把握し、見守りや安全に行動出来るようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない

67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の3分の2くらいが ③ 利用者の3分の1くらいが ④ ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族の3分の2くらいが ③ 家族の3分の1くらいが ④ ほとんどできていない